

たものは2件ございました。そのうち1件は、ご自身、所有者ご自身が除去されまして、それで今回、略式代執行を市が行ったことによりまして、特定空家がなくなったということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

ありがとうございました。

以上で、一般質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

昼食時限のため、13時まで暫時休憩といたします。

〈午後0時02分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。〔8番 新保峰孝君登壇〕

○8番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、新型コロナウイルス等感染症対策と地域医療の充実について、産業振興について、子ども医療費助成についての3点について、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

1、新型コロナウイルス等感染症対策と地域医療の充実について。

(1) 糸魚川市における新型コロナウイルス感染症の影響をどのように捉え、検査体制、医療体制、経済対策等、どのように対応してきたか。

① 医療機関、福祉施設、学校関係者、企業、飲食店等、集団感染しやすい事業者への影響、働く人たちへの影響をどのように把握しているか。感染状況と連携した対応はどのようになされたか。

② 相談体制、PCR等検査体制、隔離・保護施設の確保、入院・病床確保等の医療体制、保健所と開業医・病院との連携、各事業者の対応は、どのようになされたか。

- ③ 経済対策等の効果をどのように捉えているか。
- ア 飲食業、宿泊業等事業者支援策の効果。
 - イ 特別定額給付金、介護保険料、国民健康保険税の減免制度等、市民への支援策の効果。
- ④ 学校等への支援策の効果をどのように捉えているか。
- (2) 今後、秋・冬のインフルエンザと新型コロナウイルスが同時流行することも考えた感染症対策が問われることになるが、どのように対応する考えか。
- ① 保健所の相談体制とPCR等検査体制、発熱外来の設置等での関係者間の連携、隔離・保護施設の確保、入院・病床確保等については、どのようなやり方で進める考えか。
 - ② 半年経過後の市内経済の現況をどのように捉えているか。経済対策の強化も必要になってくるのではないかと。また、学生支援のような市独自の支援策の強化も検討すべきではないか。
 - ③ 新型コロナウイルスを早期に抑え込むには、感染震源地対策の強化が鍵になるのではないかと。
- 都市部の感染震源地域の全住民、事業所全体でPCR等検査を実施する。地域ごとの感染状態情報を住民に開示する。医療機関、福祉施設、学校等、感染リスクの高い関係者に対する定期的PCR等検査を行う。陽性者を隔離・保護・治療する体制の確立等、国に求めることが必要ではないかと。
- (3) 国による医療費削減政策が進められてきた結果、新型コロナウイルスの感染拡大により、医療人材確保や病院経営に大きな打撃となって現れている。厳しさを増す糸魚川地域の医療について、どのように考えているか。関係者間の連携がますます求められてくると思うがどうか。
- (4) コロナ禍で運動不足になりがちときこそ健康寿命を延ばす取組が必要と考える。どのような取組を行っているか。
- 2、産業振興について。
- (1) 市内産業の推移についてどのように捉え、どのような振興策を取っているか。
- ① 就業人口や市内総生産実額において農業の落ち込みが激しい。農業、林業の衰退は、中山間地域の水田、畑、山林等の維持管理に直結し、災害防止の面からも大きな影響がある。農業の担い手不足が顕在化している中で、中山間地域の資源を生かした取組強化が求められているのではないかと。
 - ② 漁業の就業人口は減っているが、海洋資源を生かした取組は、糸魚川市の特色を生かした取組となる。6次産業化方式をさらに研究強化すべきではないかと。
 - ③ 1次産業も含めた幅広い起業支援を行うと同時に、中小企業支援策の強化を図るべきではないかと。
 - ④ 新たな仕事を創り出すための農林漁業振興公社をつくり、地域資源を生かした仕事づくりに取り組んだらどうか。
 - ⑤ 新型コロナウイルスの感染拡大により、価値観の変化が言われている。地域資源を生かした新たな仕事づくりが、誘客に結びつくような取組にしていく必要があるのではないかと。
- 3、子ども医療費助成について。

当市の子ども医療費助成事業は、入院、通院ともに高校卒業までの助成となっている。入院は全額補助だが、通院では一部負担金がある。通院も全額補助できないか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、集団感染を起こさないため、福祉施設、学校、宿泊施設などを対象に、保健所から指導いただいております。

2つ目につきましては、保健所を中心に医師会と連携し、体制づくりを進めております。

3つ目につきましては、各種経済対策により、相当の効果が現れていると認識いたしております。

4つ目につきましては、衛生管理、健康管理を徹底する中で、教育活動は順調に行われております。

2点目の1つ目につきましては、保健所を中心に基本的な対応策を継続しながらインフルエンザの流行に備え、対応してまいります。

2つ目につきましては、厳しい状況が続いていると認識しており、今後も状況に応じて経済対策を行ってまいります。

3つ目につきましては、必要な措置について、県と連携して国に要望してまいります。

3点目につきましては、糸魚川総合病院や医師会と情報共有しながら、必要な支援を行ってまいります。

4点目につきましては、外出自粛に伴う運動不足解消に向け、感染予防対策を行いながら各種運動教室を開催いたしております。

2番目の1点目の1つ目につきましては、今年度から中山間地域等直接支払制度に設けられた新たな棚田の地域資源を生かした取組について、周知してまいります。

2つ目につきましては、加工・販売する事業形態を参考に、漁業者と連携して取り組んでまいりたいと考えております。

3つ目につきましては、引き続き企業創業など、中小企業支援を継続してまいります。

4つ目につきましては、現在のところ考えておりません。

5つ目につきましては、地域資源を生かした農林水産業や観光産業の取組を促進してまいります。

3番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

新保議員の3番目のご質問にお答えいたします。

これまで段階的に拡充しており、現時点では、全額助成の考えはありません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

1点目のコロナウイルス等感染症対策と地域医療の充実について、伺います。

病院の経営が、新型コロナウイルス流行前から比べると、経済的に厳しくなっていると報じられていましたけれども、糸魚川市では、医療の分野への影響はどうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、新保議員のご指摘のように市内の病院、医院でも人との接触を避けるために受診控えであったり、また、病院等では手術の先送りがあったりというようなことから、経営には響いておるといふことは、県の行った実態調査でも明らかになっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

福祉関係、介護等の関係であります。集団感染しやすい職場であり、非常に気をつけていると思いますが、市からの情報提供と感染防止については、どのように対応されてきたか、情報がスムーズに知らされていない、どのように対応すればいいのか、との声もありましたが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

国から感染症対策に関しますガイドラインといったものが随時発出されております。こちらにつきましては、3月以降、全事業所に情報提供するとともに、国・県から、また情報提供されておりますマスク、消毒用アルコールの配布等に関する情報についても随時情報提供しております。

また、先週ですが、9月2日、介護・障害者事業所向けの感染症に対する研修会も保健所の方から行っていただきまして、そちらについての対応も行っているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○ 8 番（新保峰孝君）

小中学校の対応ですが、感染を防ぐための取組はどのように行われたか。3密を避けるためにどのような日常的な取組を行ってきたか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

まず、学校の衛生管理につきましては、日常的な消毒作業、それから学校の施設整備の安全点検、そういったことを対応しております。また、保護者と連携しまして、子供たちの日常的な健康管理、健康観察を徹底しております。さらに、教育活動でありますけれども、3密を避けるための様々な工夫、それを徹底し、工夫しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○ 8 番（新保峰孝君）

3密を避けるための工夫というのは、例えばどういうふうなことがあるか、何点かお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

例えば密になりがちな教室での学習活動につきましては、できる限り密にならないように環境を徹底するとともに、また、必要に応じて空き教室などを使いながら、分散させて学習するなどの措置を取っております。また、集会活動等、全校が一堂に会するような場合には、そういった密になる危険性がございますので、テレビ会議などのICT機器を導入しながら、3密回避に努めてるところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○ 8 番（新保峰孝君）

企業関係では、感染防止策の徹底が図られていると思いますが、特に県外との取引がなされている大手の会社はそうだと思いますが、対応策についてお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

糸魚川経済団体連絡協議会が、さきに行いました調査によりますと、市内の事業所におかれましては、大勢が集まる会合や事業の中止ですとか延期をはじめ、従業員への健康管理の強化、また海外出張、国内出張の取りやめ、在宅勤務、時差出勤等の採用等が挙げられております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

飲食店関係は、経済的にも感染リスクの点でも一番厳しい職場だと思いますが、どのように対応してきたか把握されておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

飲食店や宿泊施設関係につきましては、業界別のガイドラインに沿った取組、それは施設の規模ですとか業種によって異なりますが、それに沿った対応が取られてきてるというふうに考えておりますし、元気応援券の実施に当たりまして、観光協会と市内の経済団体が連携して、保健所から講師を招いて勉強会を開催しております。

また、それに伴い、安全対策を行った施設には、ステッカーを貼りまして、安心してお客さんから来ていただくような取組も行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

糸魚川市内でも感染者が出ましたが、仕事の関係で東京への往来がある職場や集団感染しやすい事業者への対応は、どのようにされましたか。直接的責任、この感染症の関係で直接的責任は都道府県にあるということで、市としての対応が不十分ということはありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

企業の方々につきましては、基本的には企業のそれぞれの自主的な活動において行っていただいております。それに対しては、県または保健所のほうから適切な指導があって、その上で行っておるといふふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○ 8 番（新保峰孝君）

市内における非正規労働者の解雇、非正規雇用の雇い止めは、そういう点についてはどういうふうになっているか、長期化すればするほど弱い立場の人たちへのしわ寄せが行くと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現時点では、コロナに関する解雇の関係の影響は、直ちに現れているという状況ではないというふうに思っておりますが、県内でも比較的大きな規模の都市等につきましては、影響が現れてきておりますので、今後ともその動向について注視していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○ 8 番（新保峰孝君）

ぜひ雇用が守られるような立場で頑張ってもらいたいと思います。

感染状況と連携した対応ということで、市内で感染者が出ましたけれども、その際、どのように感染拡大を防ぐ関係者間の連携した対応がなされたかという点についてお聞かせ願えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市内で7月11日に、1例目の感染者の方が発生しております。それについては、すぐさま保健所、それから市が情報共有をしながら、行動歴の調査、それから濃厚接触者の把握及びPCRの検査というようなことで、緊張感を持って対応をさせていただいたところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○ 8 番（新保峰孝君）

これまで相談体制は、糸魚川保健所が受け持ち、PCR等検査体制は市外の検査機関、糸魚川市内に隔離保健施設はなし、入院・病床確保等の医療体制は中央病院、保健所と開業医、病院との連携は、連携というきちんとした体制はなかったのではないかと思いますけれども、市内の開業医、病院も経済的以外の影響も大きかったのではないかと思いますので、この点はどうか。

それから、事業者の対応としては、先ほどもお話ありましたが、デンカや明星セメントのような大手は、全国的な事業展開をしていると思いますので、厳しく対応してきたと思いますけれども、感染者を出した中小企業のように、市外・県外に仕事で出かけるけれども東京にはあまり行かないような事業者には、どのような協力要請をしてきたか、お聞かせ願えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

まず最初の病院、それから開業医、これ医師会になるわけですが、それとの連携についてご説明させていただきます。

コロナ対策で一番大事なのが、医療体制、それから検査体制の確保だというふうに認識しております。医療体制については、これも全員協議会、または議会の本会議場でも説明しておりますけども、まずは感染症の指定病院、それから軽症者については地元の病院というような段階を踏んで入院するような、そんな体制を保健所、それから病院、行政と市と協力しながら体制づくりに努めております。

また、検査体制につきましては、PCR検査センターが設置されたという報道もご覧に、お聞きになったかと思いますが、その検査体制、PCRの検査センターについては、開業医の皆さんのご協力もあって、その検査センターがようやく開設できる見込みになったと。それまでの間、病院、保健所、それから医師会、市も入ってですが、その対応についていろいろ協議を重ねてきたというところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

企業の関係に関しましては、今言われたように比較的大きな事業所につきましては、県外から来られる作業員をはじめ、徹底した安全管理を行った上で操業していただいております。その下請ですとか小さな業種につきましては、大きな事業所の取組を做って、例えば夜間の会合の自粛ですとかそういうことで、それぞれの事業所の責任の下で事業活動が行われると思うと考えております。

また、飲食店等に対しましては、お盆の前に市長名で再度の安全確保についてのご願いの文書を送付してるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

飲食業等の事業者支援策の効果はあったと思いますが、限界もあると思います、時間的な。新型コロナウイルスを抑え込むことができずに自粛状態が続けば、再度の支援策も検討しなければならないのではないかというふうにと思いますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

飲食業ですとか宿泊業に対しましては、市といたしましても緊急事業継続給付金の支給をはじめ、

プレミアム商品券の発行、元気応援券の発行などで消費の喚起を行ってきておるところでございます。

また、併せて国のGo To トラベルキャンペーン、Go To Eatキャンペーン、県の県民宿泊割引キャンペーン等がありますので、それらと連携しながら今後とも必要に応じて経済対策を打っていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

経済対策の中で、介護保険料、国民健康保険税の減免制度には、不十分なところもあるのではないかと思います。経済的に大変になっている人たちのための支援策なのに、事業を行っている方で所得税ゼロとなっている低収入の方は、介護保険料や国民健康保険税を払っているのに減免なしというのはおかしいのではないかと思います。改善すべきと思いますが、この点いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

まず、介護保険料の部分につきまして、私でお答えいたします。

介護保険料の減免につきましては、前年の所得が、議員おっしゃいましたようにゼロ、もしくはマイナスだった場合には、今回、減免の対象とはならないということで、県のほうに確認を取るところであります。そういった方々につきましては、減免ではなく、徴収猶予、納期限を最大6カ月猶予できるというものであります。そういったものにて対応していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

国民健康保険税の減免につきましては、先ほど福祉事務所長が申し上げました介護保険の減免制度と同一でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

介護保険料、国民健康保険税は、県も関係しておりますけども、市が賦課するものであります。いろいろな方面からの国への働きかけが必要であります。市からも国へ改善の働きかけをしてほしいと思います。この制度、それ自体の性格、先ほど言いましたようにコロナ禍で非常に収入が減って、事業収入が減って、困っているというところで、国の判断で計算式上そういうふうになってしまうというのは、やっぱり矛盾があると思うんですよね。ですから、市としてもぜひその働きか

けをしてほしいと思いますが、いま一度いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

今ほどの件につきましては、当市のほうでも十分検討した上で県のほうにも報告を上げてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

ぜひ取り組んでもらいたいと思います。

学校の関係ですが、アベノマスクは評判が悪かったと思いますが、糸魚川市が行った支援のマスクは、まだ時期的に手に入らない、そういう市民の方もおられるときだったので、よかったのではないかと思います。そのほかにも対策がなされましたけれども、今後のことも考えたとき、対策は、この学校関係、対策は十分と考えられておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

対策のほうは、緊張感を持って継続して行ってまいります。

ただ、現在気候的に熱中症が懸念されるところでありますので、例えばマスクの着用等につきましては、熱中症のリスクを考慮しながら、例えば屋外等で活動する場合には、あるいは登下校の際にはマスクを外すことも可能というふうな形で、その時々状況に応じながら対策を取ってまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

今ほど言われたように、状況に応じて対応していただきたいと思いますが、この後インフルエンザ、新型コロナウイルスの同時流行ということも考えられますので、インフルエンザだと学校で学級閉鎖とか学年閉鎖とか、そういうことがこれまでありました。そういうこともありましたので、ぜひ必要な手は行政のほうにも進言して、取っていくようお願いしたいと思います。

厚生労働省が、冬のインフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行に備えて、発熱症状のある患者が受診する際、まず近くの医療機関に直接電話で相談し、検査や診療ができる医療機関を紹介してもらおう体制を10月中に整えるよう4日に通知したとの報道がなされました。これまでは、保

健所などに設置された帰国者・接触者相談センターに相談していたのが、直接診療所やかかりつけ医に電話で相談することになるとのことです。糸魚川市内で新型コロナウイルスに対応できる医療機関があるのか、今後、体制を整えることができる開業医、病院等、対応できる医療施設が出てくるのか伺いたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

新型コロナウイルスの感染者への対応ということですが、これについては糸魚川市だけということではなくて、糸魚川ですと上越圏域でまず取り組むということですが、これまでも準備を進めてきております。

まず最初、感染しましたら上越のほうの感染症の指定病院でありますし、またそこがいっぱいになってくれば糸魚川地域の病院ということになるわけですが、糸魚川の地域の病院についても患者受入れのために必要な施設、設備、そういうものを国・県の補助を利用しながら現在整えておりますし、また、市のほうもこの9月の補正予算におきまして、院内感染防止の施設、設備等の補助をしていきたいということで、地域医療の医療体制の確保について努めておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

これまで保健所が行ってきた仕事との関係なんですが、多少の前後はあると思いますが、11月からは開業医、病院が、最初の相談窓口になるということですが、インフルエンザか新型コロナウイルスかの違い、その判断をそこでしてもらおうということですか、それともそうではないのか、その辺のところをお聞かせ願えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、新保議員がお話しになった内容については、この土曜日、日曜日、月曜日当たりの新聞で、私も見させていただいております。詳しい内容については、まだ通知も来ておりませんし、どういう形で運営されていくのかということも、まだ手元には来ておりません。

ただ、そういう国から示されるもの、また、県の方針が出れば、それに基づいた対応を市としてもしっかり取っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

先ほども少しお話ありましたが、今後、糸魚川市内においてPCR検査の体制を整えるというこ

とありますが、新しい体制との関係はどういうふうになりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

私、先ほど説明させていただきましたのは、PCR検査センター、これは保健所が設置・運営して、開業医の協力を得ながらそれを進めていくという内容であります。

今、新保議員との質問と、PCR検査センターとどういう関わりになるのか、ちょっと私、今の質問では承知しかねるものですから、その辺り反問で少し詳しく教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

反問をお願いします。

先ほど新保議員にご説明しましたのは、PCR検査センター、これ開業医と協力しながら保健所が設置・運営するわけですが、それと今のご質問との関係について、もう少し詳しく教えていただきたいと思います。

○議長（中村 実君）

反問を許可します。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

これまでは、そのものの名前で言うと保健所に電話をして、そして、どうすればいいですかという指示を受けて、患者さんは動く。今度は新聞報道によれば、診療所ないし病院なり、かかりつけ医なり、そこに電話をしてくださいというふうになるということですよ。そういうふうに報じられてると。そうすると、今までは保健所に電話して指示を仰いでいたんだけど、今度はかかりつけ医に、例えばAさんはかかりつけ医に電話したと。そうした場合、今まで保健所がやったことをかかりつけ医がやるんですかと。例えば今度はPCR検査の体制を糸魚川市内で整えると。ここへ行って、検体採ってくださいと。で、はっきりさせますという流れはどういうふうになるのかというのをお聞きしたいんです。

○議長（中村 実君）

反問を終了いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

それにつきましても先ほどお話しさせていただきましたように、この二、三日の間の国の通知等

でありまして、まだ全て全容を把握しておりません。

ただ、最初には、今議員がおっしゃったように、かかりつけ医なり開業医のほうへ患者のほうから相談、もしくは受診いただくと。その後、恐らく今までと同じようなPCR検体を採るような流れになるかというふうに思っておりますけれども、まだ詳細については、手元にはないものですから、詳しくは今ここでは答弁できないということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保健員。

○8番（新保峰孝君）

ちょっと繰り返しになるかと思うんですけどちょっと恐縮なんですけど、市内に感染者がいない状態をつくって、市内への出入りがチェックされて、感染者がいない状態を維持できれば、市内経済の循環がスムーズになると思いますけれども、人の出入りは止められませんので、実際には難しいと思います。そうであれば、最低限3密を避けるというふうな、そういうこととか、先ほど述べました新しい体制とか、そういうものを活用しながら、もうしばらく今の状態を続けなければならない。そうならば、今持ちこたえているそういう業者の皆さんも、ますます厳しくなってくるのは、これは明らかだと思うんですね。それらを考えたら、現状では第二弾ですね。今の制度を活用するのは活用する。それはしっかりやるというのは大事ですが、今時点、大丈夫だけでもこの先厳しくなってくるというのがあるんでないかと。そういうときは、また第二弾が必要でないかということなんですけど、いま一度考えをお聞かせ願えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

今ほど議員のほうから、経済は糸魚川市の中で回っていればというようなお話も頂きましたけれども、やはり糸魚川市だけの経済が回るのではなくて、糸魚川市以外も含めて経済は回っていると考えております。そんな中で、糸魚川市だけ発生がゼロだから全てがいいというわけではなくて、経済はそれでは絶対回らないというふうに考えております。今現在、特效薬もできてない状況の中で、行き先が見えない状況というのは、誰もがそうだろうなというふうに思っております。半年どころか1か月先も見えてない状況下にあると思っております。

そんな中で、コロナはコロナでございますが、例えば台風による影響、今、九州で大きな台風が来ております。あれも気圧の配置によってはこちらに来る場合もあるかもしれません。また、天候は不順になっておりますので、農作物とかそういった部分についてもいろんな変動が出てくると思います。そういった意味で、経済はこれからどういうふうな変化が出てくるのか、ちょっとずつちよつとずつ変わってくる中で、私らとすれば関係団体としっかりお話をして、なるべく近い線の対策というものをなるべく早く出していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

糸魚川市は学生支援策も行っておりますが、大学に集まることができない、オンライン授業も十分と言える状態ではない。バイトも厳しくなったと。実家にいるけれども、アパート代は払わなければならないというような厳しい状態の中で、退学・休学を考える学生も出てきていると報じられております。先日、テレビで報じられておりましたけれども、市独自の支援策を強化して、アパート代等の補助も検討すべきではないかと思っておりますけれども、いかがお考えか、いま一度お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、議員のほうから、確かに今大学生、後期授業のほうがもう始まっている大学もあると思うんですが、確かにオンラインで対面授業ができないという、非常に厳しい状況があるように私も受け止めております。こういった状況は、糸魚川市独自で、なかなか取組というよりもやっぱり全国的なものでありますので、やっぱり文部科学省、国が中心となった学生支援というものが、まず第一義にあるのかなというふうに思っております。そうした中で、市としてできるところはないのかというところで、この5月ですけども、学生に糸魚川市の特産品を送って、何とか応援しようではないかと。そういった心の支えをやってまいりましたので、そういった取組は状況を見て、検討しなきゃいけないというふうに考えておりますけども、今、議員の言われる部分については、まずは第一が国のほうでしっかり対応するべきではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

感染震源地対策を中途半端にしておく、いつまでたっても新型コロナウイルスを封じ込めることができないというふうに思います。都市部の感染震源地域の全住民、事業所全体でPCR等検査を実施する等、感染震源地対策の強化を国に求めてもらいたい。それが最も早く収束させて、日本全体の経済を活性化させることになると思います。これもいま一度ですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほどありました感染の震源地域、例えば首都圏等であるかと思っておりますけども、東京都でありますとか千代田区、世田谷区、また神奈川県、こういうところでも独自の感染症のためのPCR検査に乗り出しておりますし、国についても感染拡大地域では、集団感染防止のためにいろんな検査対

象の拡大をしていくということでもあります。市としましても県を通じて感染拡大を防止するためのPCR検査については、拡充するよう要望していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

専門家の中でもいろいろ考えがあると思いますが、この方法でやれば一番早く経済を再開といいますか、もう一回、活発にできる最短の方法だというふうに言われている専門家の方もおられます。ぜひこういう点を頑張って取り組んでいただきたいと思います。

糸魚川総合病院の老人保健施設「なでしこ」閉鎖問題は、当地域の医療、高齢者福祉の厳しい状況を表していると思います。そうであればなおのこと、医療と福祉、介護は、つながっているものでありますから、関係者間の連携が重要になってくると思います。コロナ禍では、なおさらだと思います。感染者が出た場合、関係者間の連携、情報共有、これはどのようにされているか。先ほど答弁ありましたけども、それぞれの施設ごとに、糸魚川市に感染者が出ましたというときにどういう対応をされるか。そういう情報を速やかに伝えて、その手を打ってもらうということも大事ではないかということですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市内で、仮に感染者が発生した場合、今ほどお話がありました医療、福祉、介護というのは、最も心配しなければならない施設であります。それらにつきましては、必要に応じて情報を共有していくと。全ての情報ということになりますと、プライバシーの問題があったり、いろいろ厄介な問題もありますので、必要な情報があれば、例えば行動歴、そして濃厚接触者の関係、そういうものについては、きちっと情報共有していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

運動不足対策といいますか、自粛の中でどうしても、今までどおりの活動なり外へ出て動くということができない状態が続いているわけですが、こういうときこそ、やはりそれぞれの家庭でできる運動、あるいは安全な形で集まって行う運動、個人で行う運動等、積極的に取り組むときではないかと思います。コロナ禍での取組の考え方をお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、コロナ禍におきましては、3密を避ける行動でありますとか、新しい生活様式を市民の皆さま

んに呼びかけております。そうなりますと、どうしても市民の行動の制約になったり、運動不足になりがちだというのは、ご指摘のとおりであります。

市では、緊急事態宣言が解除された後に公共施設の利用だとか各教室を再開し、また、そこでも感染症予防、また予防をしながらの運動教室というところを進めてきておるところであります。

また、自宅におきましても簡単にできる運動でありますとか、筋トレでありますとか、免疫力を上げる食事など、こういうものを紹介してきたところあります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

特に高齢者が大きな影響を受けるのではないかと思います。密を避けながら取組を強化していただきたいと思います。コロナ禍が過ぎたら要介護度が上がっていたと、そういうふうなことのないように、あるいは介護されるような状態になるということにならないように取り組んでいただきたいと思います。

2つ目の産業振興について、伺いたいと思います。

統計といがわ、令和元年度版の地目別面積を見ますと、平成27年と平成31年を比較しますと、田が173.4ヘクタール減、畑が66.8ヘクタール減、原野91.5ヘクタール増となっております。田畑で240ヘクタール減り、原野で67ヘクタール増えたということでもあります。耕作放棄地、休耕田の面積が増えて、原野となっている田畑も増えているということではないかと思えます。

何年前かに市外調査に出かけた際に、上越ですが、ごみは分別すれば宝の山になるという話を社長さんから聞いたことがございます。中山間地域の水田、畑、山林以外の耕作放棄地、休耕田、原野も角度を変えて見れば宝の山になる可能性を秘めているということではないかと思えます。都市部の人たちの癒やしの場という観点からも見ることはできるのではないかと思います、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

農地に限らず休耕田含めて、全てのフィールドは糸魚川市の自然、ジオとしての貴重な体験の場であるというふうに考えております。そういった中で、私どものほうでもこういった首都圏との交流等も課題として挙げて、これから取り組んでいこうというところではありますが、そういったところで1つのフィールドとして今後検討していく、また、開拓していくという考えもあるのではないかなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

以前にも話させてもらいましたけども、長野県飯田市は、都市と農村の結制度とも言えるワーキングホリデーだけでなく、体験教育旅行、南信州こども体験村、農村まるごとキャンパスの南信州めぐり大学院等、将来を見据えながら地域の自然資源を活用することに本格的に力を入れて取り組んでいるということでもあります。糸魚川市でも取り組んでいる事業ありますけれども、そのための組織をつくって、体系立てて取り組んでいるところが違うのではないかと思います。どのように思われますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

正直、現在そこまで具体的に議員の今言われてるところを検討してきたこともございません。

ただ、当市においても森林公園であったり、様々な自然に際した施設ございますので、そういったところをいま一度見直して、長野県の飯田市のそういった取組も参考にさせていただきながら、研究していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今、農村体験といたしましては、翠の里ツーリズム推進協議会が中心となりまして、主に聖学院中学校の受入れを行ってきたところでありまして、それと並行しまして、観光協会におきましても体験メニューを増やすなどして、それらを農村体験、また、教育旅行等につなげていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

飯田市では、新たな仕事を創り出して、推進するために新たな公社をつくって、地域資源を生かした仕事づくりに取り組んでいったということでもあります。糸魚川市は、飯田市にはない海の資源もございます。角度を変えた新たな仕事づくりを考えてみることも必要ではないかと思います。

海洋資源を生かした取組は、糸魚川市の強みになると思います。様々な取組が考えられると思いますが、一般的に言えば、加工して販売まで行うということで、利益が漁業者に回るようになるということだと思います。6次産業化、1次、2次、3次まで合わせて6次産業化というふうに言われておりますが、こういう新たな製品開発を研究する仕組みづくりについては、どのようにお考えか、お聞かせ願いたいと思います。現在のところ、県とかいろんなところと連携してやってはいると思うんですね。それなりに成果も出てはいるとは思いますが、さらにそれを発展させていく、そういう考えはあるかどうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

私ども糸魚川市とすれば、人口減少やら就業者の減少などの課題の取組ということも含めまして、新たな仕事づくり、雇用の確保というところは大きな命題というふうに考えているところであります。そういった中で、やはり現在は、庁内連携、また、外の商工会議所等、漁業協同組合、各団体含めて協議をしているところでございます。

そういった形の中で、現在、林業分野にはなりますけれども、商工会議所のほうが、糸魚川産業創造プラットフォーム事業で糸魚川杉の活用ということで活動を開始されておるということでございます。こういった民での動きというものを私どものほうでもしっかりと見据えて、サポートして、協力し合っていくことで、産業振興になったり、新たな仕事づくり、雇用になったりというふうに考えていくこともできるのではないかとこのように考えております。今後も、私どもしっかりと官・民含めまして、連携しながら取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

漁業協同組合、漁業の関係は、上越漁業協同組合が中心になって取り組まれているわけですが、先ほど言いましたように、現在取り組まれている県とも協力しながらやっているという取組、この取組を、公社のような市の担当課がそれに取り組むと。漁業協同組合で取り組むというそういう形だけでなく、1つ別な組織をつくって、専門にそれに取り組むと。1次産業でそういうふうなことを、飯田市のようなことができれば、さらに仕事づくりやいろんな資源を活用することができるんじゃないかということで、言わせてもらいました。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員から今ご提案いただきました農林業振興公社とか、行政と民間事業者だけではなくてというお話だったと思います。やっぱりこういった取組というのは、以前からこういったものはあったものだろうというふうに思っております。

ただ、ここへ来て、新型コロナウイルスの関係で、いろいろやっぱり変化というのが求められています。価値観も当然変わってくるというふうに考えております。そういった意味で新たな仕事をつくる。仕事をつくったら、今度は販路、どこへ売るか。それと誘客するには、いろんなアクティビティをやっぱり開発しなければならない。そのために大事なのは、やっぱり人材育成だというふうに私は思っております。そういった人材を育てて、そういうコーディネート役、結びつけるというところから出発していかないと、いきなりこういう箱をつくってもなかなか進まないのではないかなというふうに思っておりますので、そういった資源を今、国は、この機会を生かしまして何と

か仕事もつくりながら、販路、それから誘客のためのアクティビティー、そういったところの両立といますか両方がうまくいくような人材を育成するコーディネーター役、そういったところから始めていくのが大事なんだろうなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

飯田市の公社に派遣された方は、市役所の中の非常に優秀な人材をそこに派遣した。そこで始められたということでもあります。そういうふうに成功してるところでは、やはり中心になって頑張ってくれる方が、本当に優秀な方で頑張ってる。それが、これなら成功するなという感じでやられているんですね。

長野県の場合、果樹栽培が多くて、人手が足りない分を都市部の若い人たちの体験とレジャーを兼ねた取組でカバーしようという考え方で始められてるんですよ。今、コロナ禍でありますけども、これもいつかは必ず終息すると。今の状態が続くことはないと思います。見方も変わってくると思いますし、時代とともに低賃金・長時間労働という時代がずっと続いていくということは、私はないと思っております。都市部の人たちが自然を楽しみながらリフレッシュすると。生産物を販売するだけでなく、体験し、楽しんでもらい、リフレッシュしてもらう。それが仕事づくりになると。そういう取組をしているところもあるわけでありまして。糸魚川市もぜひ研究していただきたいと思います。

もう一点、子ども医療費助成の点ですが、新潟県内30市町村のうち、入院については27市町村が高校卒業まで、通院については25市町村が対象となっております。一部負担はいろいろあります。

糸魚川市は、高校卒業までの助成を県内トップで実施されたんですね。その後、いろんな市町村が、それについて後を追ってきたという形になってると思うんです。日本一の子供を育てるという目標を持つ糸魚川市として、通院の一部負担分の全額補助を検討できないかと、いま一度お聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今、議員おっしゃるとおり県内30市町村の中で、糸魚川市は高校まで全て対象で、入院が無料化されてまして、手厚いほうだというふうに認識しております。本年度から、おたふく風邪予防接種の助成でありますとか、妊婦への産前・産後ヘルパーの派遣を実施するなど、状況を見ながら子育て支援を拡充しているところであります。医業費助成に限らず、総合的に子育て支援を考えていく必要があるというふうに考えておまして、子ども医療費につきましては、今のところ拡充というものは考えていないという状況であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

終わります。

○議長（中村 実君）

新保議員の質問が終わりました。

14時20分まで暫時休憩いたします。

〈午後2時08分 休憩〉

〈午後2時20分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、高澤 公議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高澤議員。〔13番 高澤 公君登壇〕

○13番（高澤 公君）

創生クラブの高澤です。よろしくお願いします。

1、市職員の各種資格取得状況について、伺います。

(1) 市は、資格試験受験料補助金制度事業で、資格取得者の支援をしていますが、助成申込者の中に消防職員のほかに市役所職員はいません。一般職員は対象外なのか、または向上心を持った職員が少ないのか。

(2) 働き方改革が言われて久しいものがありますが、定年退職後の第2の人生が一番楽しいと説く本も出ているくらいであります。有意義な人生後半を過ごすための方法として、資格取得も大事なことと思われませんが、市の考え方を伺います。

(3) 市職員のスキルアップの方法として、各種資格試験の取得は最適なものと思われませんが、職員の意識高揚に対して、どのように対応してきたか伺います。

(4) 難関の国家資格への挑戦は1回でクリアできるものとは限りません。現在の制度では同一試験で何回まで利用できるのか。同時に補助金はどうなるのか。

(5) 市の事業で1款から11款まで全ての事業で外部委託をしています。指定管理や調査、統計、設計、測量など幅広い分野で外部事業者への委託をしています。職員の中にそれら職種専門資格を持った人の有無によって、費用も変わってくると思います。資格取得は職員個人のためばかりではなく、市の経費節減のためにも大いに役立つと思いますが、いかがでしょうか。

(6) 現在は人生100年と言われ始め、実際に80歳を過ぎても元気で働いている人を見かけます。見かけるというよりも普通の現象となっています。冒頭にも言いましたが、第2の人